

和辻哲郎 (わつじ・てつろう) 1889~1960

哲学者・倫理学者・日本文化史家 ~人間の学としての和辻倫理学の確立者~

出生 1889年(明治22)3月1日、兵庫県神崎郡砥堀村仁豊野(現・姫路市)に医師の次男として生まれる。「医は仁術」という父親の信念に影響を受けた。
履歴 姫路中学、第一高等学校を経て、東京帝国大学哲学科入学(1909) 在学中に谷崎潤一郎等と第2次『新思潮』を創刊した。高瀬照と結婚、卒業(1912)。小山内薫の新劇運動にも参加したが、文学への志を断った。東洋大学教授(1920) 法政大学教授を経て、京都帝国大学助教授(1925)。道徳思想史研究のためドイツ留学し(1927-28) 東京帝国大学教授(1934-49)。倫理学会を創立し、会長となる(1950-60)。文化勲章受章(1955年)。

事績 『ニイチェ研究』は最初の著書であり、キルケゴールなど実存哲学を紹介した。日本文化を見直して『古寺巡礼』を執筆し、『日本古代文化』は学究生活の第一歩となった。また、谷川徹三等と岩波書店の『思想』の編集にあたり、執筆もしている。京都に移り、日本精神史・仏教・西洋哲学など多方面にわたり文化史や思想史の研究をすすめる、『日本精神史研究』や『風土』などを出版している。東京帝国大学で倫理学講座を担当することになるが、「人間の学としての倫理学」と呼ぶ独自の哲学を唱え、『倫理学』3巻に体系化した。敗戦後、新憲法の解釈を巡って憲法学者佐々木惣一と論争した。

評価 谷川徹三は「和辻さんの眼は随所にイデエを見ることのできる眼だ。だから和辻さんの思考の根源には、いつでも何か感覚的根源性がある。」と述べている。和辻は「美」の哲学者と称されるが、自らの眼でみた文化、人間、日本の本質をつかみとっている。日本文化の特性を最も明確に認識した哲学者として高く評価する意見も多い。対社会的姿勢においては生涯一貫した保守主義者で、敗戦後まもなく天皇制支持の論陣を張った。戸坂潤は風土論で和辻の着眼は正しいと認めながらも、マルクス主義の立場から日本主義哲学と批判し、家永三郎もイデオロギー批判をおこなっている。論争や賛否諸論については、全集や参考文献に掲げた図書に多く収録されている。

代表作

『古寺巡礼』 『思潮』に1918年に連載したものをまとめ、1919年に刊行。奈良の古寺の印象を豊かな美的感受性があふれた瑞々しい文章で綴っており、日本人の精神の歴史を見つめる視点がうかがわれる。長年にわたり、この書に導かれて古都奈良を旅する人も多い。全集の2巻に収録。

『風土』 ドイツ留学時の経験やハイデッガーの影響もうけて風土性の問題に迫った書。人間存在の構造契機としての風土性を明らかにすることを目指している。全集の8巻に収録。

『倫理学』 人間存在の理法たる倫理を体系的に叙述しようとした書。上・中・下巻からなるが、中巻までを終戦前に刊行している。戦後、若干の改訂をしているが、全集には戦後削除した箇所も付録として掲載している。全集の10巻と11巻に収録。

キーワード 人間の学としての倫理学 人の人に対する、人の家族に対する、また人の社会に対する本質的関係に基礎をおいたひとつの日本的体系である。西洋の私的で個人的な倫理学にくらべると和辻の倫理学は人間を共同体および社会に包含されるものとみている。

レポート 和辻は自分に最も大きな精神的影響を与えた人として、漱石と父をあげている。一高で、教室の窓の外で漱石の英語の授業に耳を傾けるほどの熱狂ぶりであった。東大卒業後に初めて手紙を送り、漱石の返事には「殆んど異性間の恋愛に近い熱度や感じを以て自分を注意してゐるものがあの時の高等学校にあやうとは、今日迄夢にも思ひませんでした」と書かれていた。

神奈川 夫人の照の生家は横浜の貿易商で、住まいは藤沢町鶴沼にあった。若き和辻の恋文が、矢継ぎ早に照に届けられた(全集25巻 書簡に所収)。また、墓は北鎌倉の東慶寺にある。

最期 1960年12月26日、心筋梗塞のため東京都練馬区の自宅で死去。享年71歳。



田村茂撮影

Great Works 24

和辻哲郎全集 全27巻 岩波書店 1961~63, 78, 91~92年 <081.8/16>

解題 和辻哲郎全集は岩波書店から第1次全20巻(1961~63)、第2次全20巻・補遺(1976~78)、第3次増補改版全25巻・別巻2巻(1989~92)が出版されている。編集委員は安倍能成、天野貞祐、谷川徹三、金子武蔵、古川哲史、中村元であるが、第3次には増補編集協力として湯浅泰雄が加わっ

た。当館の所蔵は、第1次分に加えて第2次分の補遺、第3次分の第20巻～25巻・別巻2巻である。
内容

- 1 ニイチェ研究 [筑摩書房 (筑摩選書) 1942年 (改訂第3版)] ゼエレン・キェルケゴオル [筑摩書房 1947年 (改訂新版)]
- 2 古寺巡礼 [岩波書店 1947年 (改訂版)] 桂離宮 [中央公論社 1958年] 【論文】人物埴輪の眼 [「世界」1956年1月号] 麦積山塑像の示唆するもの [名取洋之助『麦積山石窟』の序文 1957年]
- 3 日本古代文化 [岩波書店 1951年 (新稿版)] 埋もれた日本 [新潮社 1951年 短文集]
- 4 日本精神史研究 [岩波書店 1940年 (改版) 主として「思想」に発表されたもの] 続日本精神史研究 [岩波書店 1935年 論文集]
- 5 原始仏教の実践哲学 [岩波書店 1932年 「思想」に掲載の論文をまとめたもの・学位論文] 仏教哲学の最初の展開 [「心」に掲載された論文 (1945-58年) に加筆増補し1つにまとめたもの 未刊]
- 6 ケーベル先生 [弘文堂 (アテネ文庫) 1948年] ホメーロス批判 [要書房 1946年] 孔子 [植村書店 1948年], 近代歴史哲学の先駆者 [弘文堂 (アテネ新書) 1950年]
- 7 原始キリスト教の文化史的意義 [岩波書店 1948年 (第5版)] ポリス的人間の倫理学 [岩波書店 1947年]
- 8 風土 [岩波書店 1949年 (13版)] イタリア古寺巡礼 [岩波書店 1950年]
- 9 人間の学としての倫理学 [岩波書店 (岩波全書) 1934年 岩波講座『哲学』の中の『倫理学』の改作] カント実践理性批判 [岩波書店 1935年] 人格と人類性 [岩波書店 1938年 論文集]
- 10・11 倫理学 上・下 [岩波書店 1937-49年 『倫理学』上・中・下]
- 12・13 日本倫理思想史 上・下 [岩波書店 1952年]
- 14 尊皇思想とその伝統 [岩波書店 1943年] 日本の臣道 [筑摩書房 (戦時国民文庫) 1944年] 国民統合の象徴 [勁草書房 1948年 佐々木惣一との憲法論争に関する諸論文を集めたもの]
- 15 鎖国 [筑摩書房 1950年 大戦中、東大文学部倫理学研究室での「近世というものを初めから考えなおしてみる」研究会に端を発している。]
- 16 歌舞伎と操り浄瑠璃 [『日本芸術史研究 第1巻 歌舞伎と操浄瑠璃』 1955年]
- 17 偶像再興 [岩波書店 1937年 評論集] 面とペルソナ [岩波書店 1937年 2番目の評論集] アメリカの国民性 [筑摩書房 (戦時国民文庫) 1944年]
- 18 自叙伝の試み [中央公論社 1961年 「中央公論」1957年1月～60年12月に連載 一高時代の中途まで]
- 19 仏教倫理思想史 [未刊のノート4冊で、京都大学での講義「仏教倫理思想史」の草稿に増補加筆したもの]
- 20～24 小篇1～5 [1907年 (18歳) より1960年 (71歳) まで]
- 25 書簡 [18歳より71歳までの書簡。『故国の妻へ』(角川書店 1965年) 所収の留学中、妻宛の手紙を含む]
- 26 別巻1 「メモランダム」ノート [1913.X.] 「芸術論」ノート 「日本文化史 (仏教渡来後) ノート」 「国民性の考察」ノート (抄) 他
- 27 別巻2 講演筆記 未定稿 断片・メモ 公文書等 補遺

参考文献 ～この人をもっと知るために～

<図書>

- ☞ 甦る和辻哲郎 人文科学の再生に向けて (叢書<倫理学のフロンティア> 5) / 佐藤康邦ほか編 ナカニシヤ出版 1999年 257p <121.65HH / 1> 資料番号 21144001
- ☞ 和辻哲郎の面目 / 吉沢伝三郎著 筑摩書房 1994年 255p <121.6CC / 135> 資料番号 20659660
- ☞ 和辻哲郎 (20世紀思想家文庫 17) / 坂部恵著 岩波書店 1986年 287p <121.9 / 152> 資料番号 12301602
- ☞ 和辻哲郎 近代日本哲学の運命 (歴史と日本人 4) / 湯浅泰雄著 ミネルヴァ書房 1981年 385p <121.9 / 124> 資料番号 10202711
- ☞ 人と思想 和辻哲郎 / 湯浅泰雄編 三一書房 1973年 411p <121.9 / 128> 資料番号 12301362
- ☞ 西田幾多郎と和辻哲郎 / 高坂正顕著 新潮社 1964年 248p <121.9 / 54> 資料番号 10201218

<図書(部分)>

- ☞ 和辻哲郎の人と思想 / 唐木順三著 (現代日本思想大系 28) 筑摩書房 1963年 p7-52 <081.6 / 26 / 28> 資料番号 10149623